

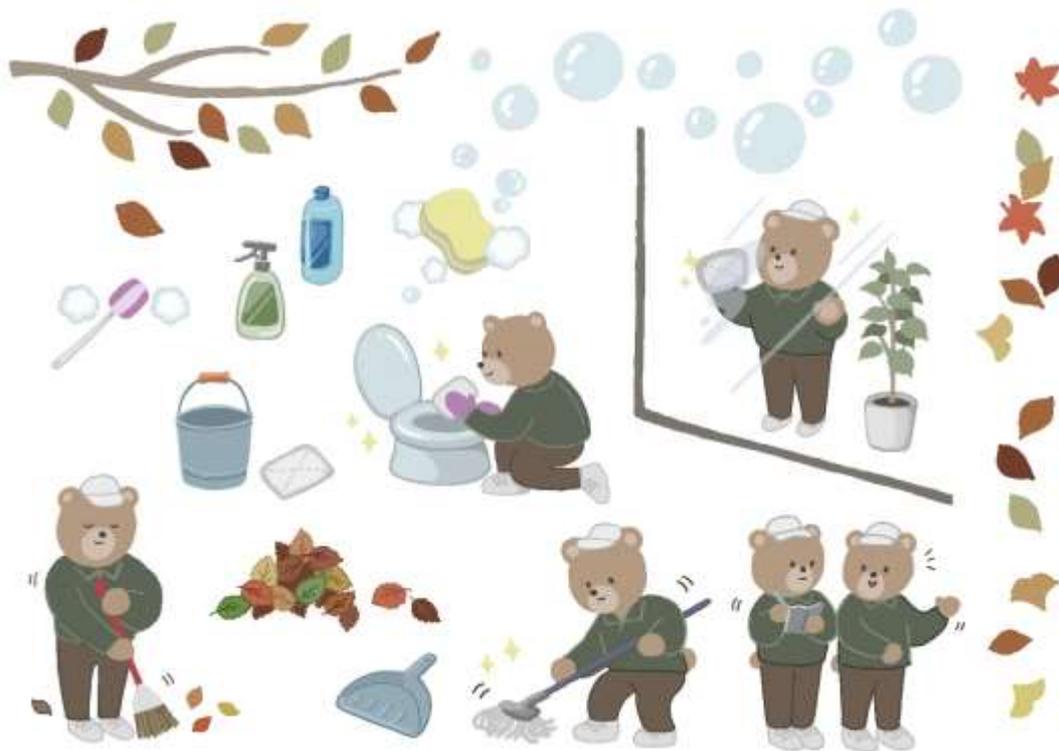
Chairman's Correspondence

掃除は大事な躰の一環です

むかし、よくテレビの学校ドラマで、先生が「罰として便所掃除！」という場面がありました。よく考えると、これでは「掃除は労役で嫌なもの」、「便所掃除は最も忌み嫌うべきもの」ということを教えているようなものです。「便所掃除を職業にしている人は何かの罰を与えられているの？」と聞く子も現れかねないと思いました。

当校では掃除は重要な躰の一環と考えています。外国(とりわけ先進国)では、学校に掃除する人を雇い、子どもに掃除はさせませんが、最近はシンガポールやアラブ首長国連邦などで掃除を教育に取り入れているように、少しずつ掃除は教育現場で見直されています。「整理整頓は基本」「みんなが共通して使うところを美しくすることは喜び」という内面的価値観を教えるためです。

世界ランキング 1 位のハーバード大学の学生をルポした本、「ハーバードの日本人論」中公新書ラクレ、佐藤智恵著)を読むと「どのような環境に育ったらこんな風に良くできた若者になれるのだろうか？」と驚くことばかり。著者が「自分の育ってきた環境を振り返ってみてどんな習慣がハーバード大学に合格するのに役立ったと思いますか？」と聞くと多くの学生は「親から部屋の整理整頓、洗濯、皿洗いなどを自分でやるようにしつけられたこと」と答えます。



勉強も「点数をとること」だけを目的にして評価されると、「真に学ぶことの喜びや楽しみ」を忘れ、テクニックだけのつらいものとなります。生涯学習の時代、将来も職場で、家庭で、社会で学び続けていく時代に、内発的に学ぶ喜びを、内発的に人に役立つことを今小学校の時代に身に付けていかねばなりません。

Chairman's Correspondence

デジタル教科書で学力低下？

フィンランドで『「紙の教科書」復活歓迎(読売新聞)』という記事が載りました。フィンランドは教育先進国で有名ですが、2000年に始まった国際学習到達度調(PISA)で読解力は世界一。2003年度始まった、数学的応用力2位。2006年度始まった、科学応用力世界1位でした。でも2022年には3分野の成績は世界14位、22位、9位と下落。急速なデジタル化がこれを招いたというのです。「パソコンで見る教科書は、どこを読めばよいのかわからないことがあった。」という声があり、子どもの集中力が低下し、短気になると言ったことがフィンランド全土で問題化し、デジタル偏重への懸念が高まったのです。



フィンランドのリーヒマルキ市の保護者の7割が紙の教科書を望み、教員の8割が外国語などの授業で紙の教科書を使いたいと答えたと言います。この秋から中学校の物理や化学でも紙の教科書を復活させるそうです。

2022年 PISA で3分野とも世界一位のシンガポールでは小学校ではデジタル端末を配らないことを2023年に決めました。この動きに反し、日本ではデジタル端末は1年生からもう配られており中央教育審議会では2月にデジタル教科書を正式な教科書と認める提案をしています……
どうなのかな～？

小学生(特に低学年)のうちは十分に鉛筆で板書を写し、定規で線を引き、文字を書く。体感をもって学ぶことはもっと必要かも？

ちなみにリリーバル小学校では3年生までデジタル教材は一切持たせず、全校で電子教科書は使用しておりません。